

## ●Android Studio の新バージョンにおけるビューの id の設定について

Android Studio において、画面の部品（ビュー）の識別名（id）を設定する際は、Design エディターの[Properties]ウィンドウの[id]の項目に、任意の id を入力します。

例えば、テキストビューの id を「textView」に設定する場合は、「@+id/textView」のように入力します。

しかし、現時点（2014 年 9 月）の最新バージョン「0.8.9」では、「@+id/」の入力が不要となり、たんに「textView」とだけ入力すれば済むようになっています。この場合、XML ファイルには、以前と同様に次のコードが記述されます。

```
android:id="@+id/textView"
```

もちろん、これまで通りに id の入力欄に「@+id/textView」と入力しても問題はありませんが、入力が確定した直後に「@+id/textView」の表示が「textView」に切り替わります。

したがって、書籍の以下のページの記述の赤字の部分は「textView」に読み替えていただきますよう、お願いします。

### p.257「プロジェクトを作成して画面を作る」

テキストビューを配置したら、Properties ウィンドウの id の欄を見て、「@id/textView」という名前が付けられていることを確認しておいてください。

### p.271「プロジェクトを作成して画面を作る」

テキストビューを配置したら、Properties ウィンドウの id の欄を見て、「@id/textView」という名前が付けられていることを確認しておいてください。

## ●TextClock の対応バージョンについて

書籍の p.510 で解説しているウィジェットの TextClock は、API レベルが 17 以降に対応しています。このため、API の最低対応バージョン（Minimum SDK）をレベル 17 より前のバージョンを指定している場合は activity\_main.xml に警告を示す破線が表示されますが、プログラム自体の実行には支障ありません。

なお、警告の波線を表示しないようにするには、API レベル 17 以降に対応したプロジェクトを作成し、このプロジェクトを利用してアプリを作成してください。

## ●ビューの左右の余白の設定について

ビューに対して余白を設定する場合、Android Studio の 2014 年 9 月現在の最新バージョン

ョン「0.8.9」では、左、または右側のみの余白を設定すると、反対側の余白も設定するよう  
にとのエラーが表示されます。このままの状態でもアプリの実行には支障はありませんが、  
エラーの表示を消す場合は、左右両方の余白を設定するようにします。  
書籍では、以下のページにおいて左側の余白のみを設定する説明がありますので、エラー表  
示を消す場合は、次のように右側の余白を「0」として設定するようにしてください。

p.662

paddingRight を追加して右側の余白を「0dp」に設定します。

```
android:orientation="vertical"
android:paddingTop="100dp"
android:paddingLeft="100dp"
android:paddingRight="0dp" />    ←paddingRight を追加する
```

p.666

余白を「0dp」に設定した paddingRight、および paddingLeft を 2 つのボタンそれぞれに  
追加します。

```
<Button
    android:layout_width="wrap_content"
    android:layout_height="wrap_content"
    android:text="New Button"
    android:id="@+id/button"
    android:paddingLeft="100dp"
    android:paddingRight="0dp" />    ←paddingRight を追加する
```

```
<Button
    android:layout_width="wrap_content"
    android:layout_height="wrap_content"
    android:text="New Button"
    android:id="@+id/button2"
    android:paddingRight="100dp"
    android:paddingLeft="0dp" />    ←paddingLeft を追加する
```

## ●環境変数 PATH の設定確認

書籍の chapter2 で紹介した方法で、Java へのパスが設定されますが、設定した環境変数「PATH」が正しく設定されたのかは、次の方法で確かめることができます。

- ① [コマンドプロンプト]を起動します。
- ② 「javac-help」と入力して[Enter]キーを押します。

コマンドを入力した後で、Java のヘルプの内容が表示されれば、パスが正しく設定されていることになります。

なお、「java version」と入力して、Java のバージョンを表示させることで、パスの確認を行うこともできますが、システムに別途で Java がインストールされている場合は、この Java が参照されることがあるので注意してください。ただし、表示されたバージョンと、自身でインストールした JDK のバージョンが一致していれば、特に問題はないかと思われます。

## ●環境変数「JAVA\_HOME」の設定

書籍では、Android Studio を使うための準備として、Java へのパスを環境変数「PATH」を使って設定するようにしています。Android Studio を使う場合は、これでまったく問題はないのですが、Java を利用するほかのアプリケーションでは、別途「JAVA\_HOME」という環境変数の設定が必要になる場合があります。たとえば、サーバーサイド Java で使用する「Tomcat」というサーバーアプリケーションは、JAVA\_HOME を参照して Java(JDK) の位置を取得するようになっています。

もし、このようなアプリケーションを別途、利用する予定があるのでしたら、次の手順で JAVA\_HOME の設定を行っておくとよいでしょう。なお、以下の手順では、システムの環境変数を設定しますので、パソコンを使うすべてのユーザーに対して環境変数の設定が有効になります。

- ① コントロールパネルを起動して「システムとセキュリティ」→「システム」を開きます。
- ② [システムの詳細設定]をクリックします。
- ③ [システムのプロパティ]ダイアログボックスの[詳細設定]タブの[環境変数]ボタンをクリックします。
- ④ [環境変数]ダイアログボックスの下に表示されている[システム環境変数]の[新規]ボタンをクリックします。
- ⑤ [新しいシステム変数]ダイアログボックスの[変数名]の欄に「JAVA\_HOME」と入力し

ます。

- ⑥ [変数値]の欄に **JDK** のパス (**C:\Program Files\Java\JDK** のフォルダー名) を入力して[OK]→[OK]ボタンをクリックします。**JDK** のフォルダー名は、バージョンが 1.7.0\_60 の場合は「jdk1.7.0\_60」のようになっています。